



## ～寮歌で深まる夕陽の絆～



少なくとも私が教員になつてからは常に教育改革の波が押し寄せており、大小様々なあらうが、今もその真っ只中である。現在の学習指導要領もようやく道半ば…というのに、すでに次期学習指導要領の内容がほんのまことに現れる。導要領の内容がほんのまことに現れる。近年、教育を語る際に、グローバル化、知識基盤社会、少子高齢化などが枕詞として使われる。これらの言葉がこの度の教育改革の議論の根拠となつておらず、中でも、「二〇一一年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの六五%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」(キャシー・デビッドソン)などがよく引用されるが誠に刺激的である。

現在、中教審には初等中等教育分科会だけでも四十七部会・委員会が設置され、精力的に審議が進められている。中でも、教育課程企画特別部会において次期学習指導要領の土台となる考え方方が議論され、この度「論点整理」として示された。

このような示され方はこれまでなかつたことであるが、昨年七月に貴重な講演をいたいた文部科学省初等中等教育局合田課長によると、学習指導要領を組み立てるための「基礎工事」とのことである。もう一つ加えると、これまで学習指導要領の改訂の際には、学校は常に「受け身」であった。これが「教育改革は教室の入口まで」と揶揄される状況を生み出したと指摘されている。「受け入れて実践する側」である学校が自ら思考し、

少なくとも私が教員になつてからは常に教育改革の波が押し寄せており、大小様々なあらうが、今もその真っ只中である。導要領の内容がほんのまことに現れる。近年、教育を語る際に、グローバル化、知識基盤社会、少子高齢化などが枕詞として使われる。これらの言葉がこの度の教育改革の議論の根拠となつておらず、中でも、「二〇一一年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの六五%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」(キャシー・デビッドソン)などがよく引用されるが誠に刺激的である。



夕陽会函館市支部 副支部長 加賀重仁

(昭和62年卒)

コンセプトを生み出す側との「対話」が期待されているのである。つまり、この二、三年の取組は論点整理に示された理念を実現する上で非常に重要な意味を持つ時間となる。始まつてからでは遅いのは明らかである。とはいえ、アクティブラーニングはじめ、カリキュラム・マネジメント、パフォーマンス評価、グローバル力、グローバルコンピテンス、ニューメラシー、パフォーマンススタンダード、コモンコア、イノベーションスキル、エンゲージメントと非エンゲージメント、ループリック、社会的リバーンスなどなど、横文字が並ぶ文章を理解するだけでも、相当の時間を要するのであるが。

また、これから教員の資質能力についても、キャリアステージに応じた資質能力を高める自律性、情報を収集選択・活用する能力や深く知識を構造化する力、教育課題に対応できる力などが求められているのであるが、情熱や使命感、教育的愛情、実践的指導力などは不易であることは言うまでもない。

現在、教育大学函館校と函館市教委との覚書の締結により、教育実習など具体的な取組が進められている。さらに、市教委の事業において、地域の教育力としての夕陽会員の支援は子供の成長を支える誠に大きな力である。今後ともご支援のほど宜しくお願ひいたします。

## 教育の潮流

雪解けが進み、長かつた冬も終わりを告げようとしている。木々も芽吹き春を迎える足音が大地にこだまする。三月は年度の節目と自然の芽吹きが相俟つて格別な思いの月である、母校も生き残りをかけて、新しい歩みを確実なものにしようとしている。退職し、旅行をする機会をもつことが多くなった。日本のルーツを学ぶために(ほとんどは観光であるが)出雲大社を訪ねてきた。十月を神無月というが、この地では、神有月という。今でも日本中の神がこの地に集まるといわれている。逆に巻かれた巨大な締め縛。昔は社の高さが四十数メートルもあつたという。すべて死者の魂を鎮めるためで、山陰は黄泉の国の入り口といわれているが、独特の雰囲気を感じる地であるというが、訪れた印象である。隣の松江市には「雪女」の作者である小泉八雲の記念館もある。外国人でないがら、この地には独特的靈氣を感じると移り住んだ人物である。昨年亡くなつた木しげるも山陰の出身である。鳥取県境港に生まれる。戦時中、ラバウルで片腕を失う。戦後、魚屋、アパート経営などをして、紙芝居を描きはじめ、のちに貸本マンガに転じる。その後『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』『河童の三平』などで人気作家となる。NHKの朝の連続ドラマ『ゲゲゲの女房』でお茶の間の顔になつた人物である。地元には『ゲゲゲの鬼太郎記念館』ができ、商店街は活気にあふれている。彼が書き残したエッセイ『人生をいじくり回してはいけない』の中で、鬼太郎を生む切つ掛けを秘話の形で次のように述べている。「関西の紙芝居にはグロ物というジャンルがあり、グロテス



## 自然な流れの中

夕陽会函館市支部 顧問

**青木昌史**

(昭和五十三年卒)

クで気味の悪い紙芝居だった。その中に鬼太郎は登場する。中略。初めはうまくゆかなかつたが、ちょうど兄貴の子供が三歳でませていたから、これがモデルにちようどいいやと思って、多少かわいいような丸顔になつて、いくらか描きやすくなつた。中略。鬼太郎の父親が目玉になつた時も父親は溶けて死んでしまつているから、生きかえせない。苦しまぎれに、目玉に父親の魂が宿つてポケットに入つたことにしたため父親は常にポケットに入つていなければならなくなつた。そんなことで父親のアイディアは全くハブニングだつた。破天荒な性格がよく表されている。彼は、戦争体験者である。それも南方の激戦地で、ほとんどの仲間は戦死した。彼も片腕を失う重傷をおう苦悩を味わつてゐる。けれども、「自分は死ぬとは思わなかつた。自分には背後にいつも守つてくれる妖怪たちがいた」と書いている。山陰で育つた妖怪漫画家の彼らしい言い回しである。エッセイの最後は次のような言葉で締め括られている。「人生にはいろいろなことが起こつて当たり前、下手にいじくり回すより、自然な流れに身を委ねたほうがいい。」

## 受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)

瑞	宝	光	顕	彰	(昭和41年卒)
瑞	双	光	雄	昭	(昭和22年卒)
瑞	双	光	朗	昭	(昭和23年卒)
瑞	双	光	幸	一	(昭和22年卒)
瑞	双	光	利	幸	(昭和23年卒)
瑞	双	光	直	文	(昭和23年卒)
法	坂	光	昭	昭	(昭和28年卒)
法	越	光	雄	一	(昭和36年卒)
務	山	光	朗	一	(昭和36年卒)
務	木	光	幸	子	(昭和39年卒)
大	浦	光	直	昭	
臣	丸	光	晴	和	
臣	中	表	彰		
繪	面	彰			

## 函館市立学校教職員表彰

大坂佐東	俊耕洋	幸士	彦良子	(昭和54年卒)
村田藤林	由清	子	美一	(昭和52年卒)
坂井上	藤堂	清司	潤	(昭和52年卒)
土城吉	橋	讓一	博俊	(昭和52年卒)
筑内			彦	(昭和52年卒)
林			良子	(昭和52年卒)
松			潤	(昭和52年卒)
村			博	(昭和52年卒)
吉			俊	(昭和52年卒)

受賞おめでとうございます



### 更正保護表彰を受賞して

中山 昭一

(昭和三十六年卒)

平成十一年に大森小学校を退職した後、長年保護司をやつておられた元父母と先生の会会長さんの誘いを受け、昨年九月末の満期退任まで十六年間保護司を務めてきました。

保護司は、法務省の所管で仕事は国の法律で定められており、不幸にして罪を犯した少年等が再び犯罪をしないよう立ち直りを支援したり、犯罪の無い地域づくりなどの啓発活動を推進してきました。

更正保護運動を推進する母体として、道南地区には約四百名いる保護司会という組織があり、八年前から、函館保護司会連合会の奥野秀雄会長から副会長という大役の声を掛けられました。社会を明るくする運動を始め、地域の安心、安全に関わる様々な活動の中核的な役割を果たしてきました。

特に、函館地区に二百名いる保護司会の実践として、市民の集いや様々な地域への啓発活動は、全国でも特別に注目され、実践活動の成果を東京や札幌の研修会などで何度も発表する機会が与えられてきました。

保護司の仕事はボランティアで、給料はありませんが、在籍が長く、実績のある保護司には表彰規定があり、今まで、大臣表彰は在籍二十五年、三十年を越えると叙勲を受けられてきた方々がおられます。

昨年九月、函館保護観察所長から私に法務大臣表彰の通知がありました。思いも掛けないことでびっくりしています。これは、同じ更正保護活動を共有してきた仲間のおかげであり、感激と感謝でいっぱいになりました。

結びに、更正保護活動の役職をなさつておられる元夕陽会安島会長さんや橋田現会長さんにはお世話になりました。夕陽会の皆様のご多幸を祈念いたしまして、感謝とお礼のご挨拶いたします。



坂田耕士

(昭和五十二年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞という身に余る榮誉を賜り、心より恐縮しています。このことは多くの諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や教え子の愛すべき教え子達、そして平素よりご助言・ご指導をいたいた教育関係者によるものであり、あらためて心より感謝とお礼を申し上げます。

昭和五十二年に母校を卒業し、長万部町立長万部中学校を初任校として五年間勤務させていただきました。当時の長万部町は人口一万人を超える交通機関の要所として活気に溢れ、地域保護者も教育への情熱も高く、教師としての有り様を根本からたたき込まれました。

次の上磯町立上磯中学校では二十二学級の大規模校で組織としての学校教育、生徒指導のノウハウ、そして旧校舎から新校舎への移転と道の研究会開催等、九年間、多くのことを学ぶ機会を得ることができました。

その後函館では銭亀沢中、旭岡中、本通中、管理職になり砂原中、大中山小、浜分小、静狩小、茂辺地中、日本新中と夕陽会函館支部には十三年間、渡島支部には十五年間同窓の絆のもと、職務を全うできましたのも先輩諸氏のお力添えに感謝の気持ちで一杯です。

現在私は、函館市の嘱託職員として子ども未来部次世代育成課家庭児童相談員として勤務させていただいている。子どもの成長のための電話相談や子育て等の面談だけでなく児童虐待、ネグレクト、若年妊娠、生活保護家庭への支援等々、難題への対応が中心です。これは私たちが教えた子ども達が二代三代と繰り返す「負の連鎖」なのだと、しみじみ反省しながら日々奮闘中です。

退職までの皆様のご厚情に感謝すると同時に、これらの夕陽会のご発展と会員皆様のご健勝をご活躍を心から祈念申し上げます。



東海林清

(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を得ました。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や教え子たち、地域の方々、教育関係者等々多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心より深くお礼と感謝を申し上げます。

振り返ると、沢山の夕陽での想い出があり、その中で初任の八雲町での思い出があります。町内にある食堂の二階で夕陽会の大懇親会が開かれ、大いに盛り上がった閉めに、当時の八雲中学校長から私に応援のエールをやれと命じられ、見よう見まねでやりましたが、あまりのふがいなさにしひれを切らした大先輩がエールの仕切り直しをしてくれました。三十六年前のほろ苦い想い出となりました。

また、渡島にいた頃は周りに夕陽会員がたくさんいましたので、正直、同窓の意識を感じていなかつたのですが、新米教頭で旧北檜山町の小さな小学校に赴任したときは町内に顔見知りは一人もいなく、同窓の縁を頼りに、人脈を広げていった記憶が残っており、こんなにも意義深い物だつたと改めて感じました。

お陰さまで、平成二十七年三月、函館市立西中学校を最後に期限付きも含め、三十七年間の教職生活に無事、幕を下ろすことができました。その間、渡島支部に二十一時間、桧山支部に四年間、函館支部に十二年間、本当にお世話になり、色々な事で支えていただきました。

現在は、嘱託職員として市役所の次世代育成課で家庭児童相談員をしており、養育に関する電話相談や要保護家庭への支援等、福祉の分野に携わっています。最後になりましたが、夕陽会のご発展、会員の皆様のご健康とご活躍を心からご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。



### いちばに一つ事

### 意義深い同窓の絆



## 夕陽とともにこれからも

須藤由司  
(昭和五十二年卒)



## 感謝、感謝の思い

大堂譲  
(昭和五十三年卒)



## 同窓の絆に感謝

筑土清彦  
(昭和五十四年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞の栄誉を賜り、身に余る光栄と恐縮しております。これもひとえに様々に支えていたいた諸先輩や同僚、後輩はもとより保護者や教え子たち、地域の方々、教育関係者等々、多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

「瞬く間の教職三十八年」が実感です。昭和五十二年三月、母校を卒業し、その四月、母校と縁あつて開校直後の附属養護学校に勤務。免許所有とはいえ、所詮初任者、特殊教育で悪戦苦闘しました。そして、この初任校が夕陽会との出会いとなり、本部厚生部員として春と秋の夕陽記念館の大掃除と本部大懇親会「エール」担当として五年間修行させていただきました。その後、渡島支部、木古内支会でお世話になりました。再度縁あつて附属中学校に勤務し、本部組織部員として九年間、会員名簿作成の業務を経験し、多く先輩諸氏に指導いただきました。さらに教育行政に身を置いた八年間は、函館・渡島・胆振連合の各支部の皆様に数々のご支援をいただきました。再々度縁があつて附属養護・幼稚園の副校園長の五年間は、本部副幹事長・幹事長の大役を仰せつかり、全道・全国の各支部の皆様に叱咤激励され、少しは役に立つたかと今でも自戒しかりです。特に、本部お膝元の函館支部には毎年の本部総会・懇親会や九十周年事業では本当に支えていただきました。そして、教職最後の磨光、東山の両小学校長在任中は函館支部の正式会員として六年間、身近な存在として夕陽会がありました。

退職後、教育関係の新聞社の仕事をしております。まだ教育や同窓会に「恩返し」せよとのことと自覚しております。「夕陽会は心のふるさと」まずは百周年に向けて少しでも貢献できれば…。皆様に感謝です。

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を得ました。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や子供たち、地域の方々、教育関係者等多くの皆様方のお力添えによるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

昭和五十三年三月、卒業の手続きの折り、夕陽会（ゆうひかいと読んだ）を知りました。以来、福島町立浦和小学校（開校）を振り出しに、一市一町五校二十一年間、経験させていただきました。特に教員時代に感じたことは、夕陽会以外の教員の方が異質（失礼）に思われ、右も左も夕陽の教員ばかりで、ありがたさなど、感じることはありませんでした。

その後、室蘭市教育委員会を振り出しに教育行政を六年間、勤務させていただきました。行政に出て、一番不安に思つたことは知つてゐる方がほとんどのなかつたことです。そんな中、夕陽の方々がいてくれたことは、どんなにか心強く、ありがたさを痛感したものです。まったく知らない校長先生や教頭先生にいろんな面で助けられました。ただ、同窓というだけです。本当にありがたい気持ちで一杯でした。

無事退職を迎える、一年が過ぎようとしている今、改めて、それぞれの地において、夕陽会の皆様に公私にわたり格別のご指導をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。今後も、夕陽同窓生として、函館市の教育に少しでも貢献できるよう、努力してまいります。

最後になりましたが、今後の夕陽会のますますのご発展と会員皆様のご健勝・ご活躍をご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を得ました。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や子供たち、地域の方々、教育関係者等多くの皆様方のお力添えによるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

昭和五十四年三月に母校を卒業して、函館市立東小学校が教員生活のスタートでした。ここ数年、市内外中学校で学校統合計画が進んでいますが、当時は校区内に西洋団地が造成され、第二次ベビーブームの子供たちが毎年入学して東小学校は児童数五百人以上の学校でした。

学級増で三学級になつた担任の一人として配属され、学習指導・生徒指導・健康安全指導など教員としての「いろは」を学年団の先輩から学びました。地元函館に勤務したこともあり夕陽の結びつきをさほど感じることなく過ごしていましたが、職員室内の多くの先輩とともに支えていたいたい学年団のお二人も夕陽会員でした。

その後、渡島支部に五年間、平成になつて再び函館市支部にお世話になりましたが、勤めてからの二十年間は夕陽会員としての意識が高いとはいひませんでした。平成十一年に昇任教頭として日高管内に異動する際、夕陽会から祝詞をいたきました。遠く見知らぬ土地で職務や生活への不安が多々ありましたが、着任校の校長から学校運営や家庭・地域との連携など教頭としての心得について幅広くご教示いただきました。管理職として初めてご指導いただいたその上司も夕陽会員でした。

今、振り返ると、学生から社会人、教諭から教頭と大きな節目の時に、いつも同窓の先輩の温かなご指導を受けることができ、恵まれていて感じています。

最後になりましたが、今後の夕陽会のますますのご発展と会員皆様のご健勝・ご活躍をご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。



## 同窓の絆の有難さ

松井 博美

(昭和五十二年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄誉を賜り、身に余る光栄と恐縮しております。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより、保護者や子どもたち、地域の方々、教育関係者等、多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものと、心より深くお礼と感謝を申し上げます。

昭和五十二年三月に母校を卒業し、その四月、松前町立館浜小学校（閉校）に赴任して、教職員人生が始まりました。その後、千代ヶ岱小、中央小、そして大野小学校で教壇に立たせていただきました。通算二十三年間の教諭時代で、未熟さのため右往左往していた私が、夕陽会の諸先輩のご指導により、満足のいく学習指導や研究発表、適切な生徒指導を行えるようになりました。

教頭として日々に赴任し、三年間日高支部の会員とさせていただきました。助言者として研究会に参加する機会が増えたこの時期、支部会員の皆様から心温まるご指導を賜り、助言者の任を果たすことができました。

渡島に異動し、八雲、大野、松前の三町で各種研究会の運営に携わり、平成二十一年度から、校長として八雲町で二年間、そして、念願が叶って、函館市立日新小で最後の三年間を勤めさせていただきました。

三十八年間の教職員人生を全うできたのも、夕陽会の皆様のご指導と叱咤激励によるものと深く感謝しております。衷心より同窓の絆のありがたさを感じています。

現在、ご縁があつて、函館児童相談所の保護指導員として、毎月十日余り勤務しています。これまでの教職経験が生かされています。また、九十歳を超える父、義母の支援、介護を行う毎日でもあります。

結びになりましたが、これまでの皆様のご厚情に改めて感謝し、今後の夕陽会会員の皆様のご健勝をご祈念申しあげ、夕陽会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



## 報恩謝徳

村上俊一

(昭和五十二年卒)

この度、函館市学校教職員表彰の栄を得ました。これもひとえに、皆様方のご指導やご助言によるものと深く感謝しております。

昭和五十二年三月に母校を卒業し、檜山管内瀬棚町の島歌第二小中学校という僻地二級の併置校に赴任いたしました。大学でも殆ど学んだことのない複式校ということで、四苦八苦の毎日でしたが、職場には同窓の先輩があり、いろいろと教えていただきました。

五年間の檜山管内での教職経験を積み、二校目は渡島管内福島町にあつた白符小学校に赴任いたしました。青函トンネル工事も終盤を迎えた昭和五十七年ということです、百名以上いた児童も年を追う毎に減少し、三年後には複式となり、職員の減少とともに次の年には過員のため異動となりました。

函館市を跨ぎ、戸井町の小安小学校に赴任いたしました。その数年後に渡島教育研究所の所員に委嘱されました。その時に、函館市南北海道教育センターの指導主事の皆さんや研究員の皆さんとの交流があり、たくさんの方にお世話になつたことが、昨日のことのように思い出されます。その後、七飯町へ異動し、道立理科教育センターの職員となり、ここでもいろいろな場面で函館市の方や函館市出身の方々にお世話になりました。

そして、教頭として渡島管内で勤め、校長として檜山管内と渡島管内で六年間過ごしました。最後の二年間は、縁があり函館市立金堀小学校で務めさせていただき、教職生活にピリオドを打ちました。この間いろいろな方々と出会い、お世話になり感謝しております。

終わりにこれまでのご厚情に感謝するとともに、夕陽会の益々の発展と、会員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、お礼の言葉と致します。



受賞者の皆様

函館市コミニティープラザは、次代の函館を担う若者が豊かな発想に基づいた自由な発想・企画を具現化する空間として本町地区に整備される新しい施設である。多くの市民、特に若者が気軽に立ち寄り、広く交流できる施設づくりをコンセプトに、種々のプログラムを企画・検討・実行することができる可変性の高い場を提供することで、未来のまちづくりの拠点となることを目的としている。可動式空間仕切り、演出照明器具、映像機器、防音性能などを備え、音楽、演劇、パフォーマンス等のイベントや、講演会、展示発表会などの多様なニーズに即した多目的ホールと、誰もが気軽に立ち寄ることでできるフリースペースが整備される予定である。

贈呈式は、二月二十五日に函館市役所で行われ、風間支部長から担当の平井経済部参事へ目録が手渡された。



函館市コミニティープラザは、次代の函館を担う若者が豊かな発想に基づいた自由な発想・企画を具現化する空間として本町地区に整備される新しい施設である。多くの市民、特に若者が気軽に立ち寄り、広く交流できる施設づくりをコンセプトに、種々のプログラムを企画・検討・実行することができる可変性の高い場を提供することで、未来のまちづくりの拠点となることを目的としている。可動式空間仕切り、演出照明器具、映像機器、防音性能などを備え、音楽、演劇、パフォーマンス等のイベントや、講演会、展示発表会などの多様なニーズに即した多目的ホールと、誰もが気軽に立ち寄ることでできるフリースペースが整備される予定である。

## 平成27年度 夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会

平成28年2月19日(金) 於ロワジールホテル函館



ご祝辞 副市長 中林 重雄 様



受賞者代表 ご挨拶 中山 昭一 様



寮歌合唱



乾杯 夕陽会会长 橋田 恭一 様



祝杯 教育長 山本 真也 様



風間支部長



夕陽贊歌



明日を担う若き夕陽会員



未来に向けてエール



力強い応援

## 函館市コミニティープラザへ キッチング用具一式を寄贈

「地域貢献事業」

# 函館市立光成中学校 ・職場紹介



本校は、昭和二十三年三月函館市立高盛（こうせい）中学校として設立許可され、昭和二十五年三月現在の校名となり、今年で創立六十八年をむかえる学校です。以前は、生徒数八百名余り、学級数は十八学級の大規模校でしたが、市内の人口が減少し、現在は、学級數三学級の小規模校となっています。さらなる生徒数現象に伴い、平成三十年度には、的場中学校凌雲中学校との統合が確定しています。

学校は、函館市の中央部に位置し、石川啄木の歌で知られるかつての砂山付近にあります。しかし、その砂山も今は見ることができず、「啄木小公園」の歌碑に名残をとどめるだけになっています。

校区は、高盛町、宇賀浦町、日之出町、堀川町の一部からなり、地域には水産加工場、自動車整備工場、建設関連業のほか、自営業の商店が多いです。住宅はそうした中に混在しており、住民の多くは二代、三代と住みついています。他地域

■ 会員

鳴吉田海昭和五十七年卒  
康善田井村田昭和六十年卒  
亨(昭和六十年卒)  
一郎(昭和六十三年卒)  
斗(平成二十六年卒)

本校の特色ある教育活動としては、生徒会を中心に、リサイクル物を回収し、そのお金で購入した車椅子を社会福祉施設に寄付したり、年に一度、海岸清掃ボランティアを行ったりしています。今後も、この地に根ざした教育活動を通して、確かな学力と豊かな心を身につけ、心身ともに健康な子どもたちの育成に努めています。

と比べると強い住民相互の結びつきがあります。昭和四十年に制定された校訓は『至誠』で、これは当時、「本校の良さはどういうところか」、あるいは「欠点は何か」を考え、教師たちだけの意見ではなく、保護者の方々や生徒たちからも意見を集めて決定したものです。この校訓をもとに、今日まで教職員が一体となり、いつの時代にも求められる確かな学力と豊かな心、主体的な判断力及び行動力を身につけた心身ともに健康な子どもの育成に努めています。

函館市立中部小学校



本校は、昭和五十三年四月、新川小学校と松風小学校が統合され、中部小学校として新設開校しました。函館市の西部地区にあたる函館湾と大森浜に囲まれた砂州の成長によつてできた平坦な低地にあり、市役所及びJR函館駅の北東部に位置しています。校区の一部は函館駅構内に面し、市内の商業地域、交通機関が集中している地域に隣接しており、商店街や老舗市場にも囲まれています。また周辺には函館地方合同庁舎や函館地方裁判所、中央郵便局、NHK函館放送局などの公共施設が多くあります。さらに、函館総合福祉センターや函館市立図書館千歳分館などの教育文化福祉施設も恵まれた環境にあります。その一方で、古くからの住居者が多く、住民同士のつながりも深いのですが、ドーナツ化によ

会員紹

校長	教諭	教頭	教諭
高橋	谷川	菊池	奧田
柳山	田中	藤田	伊豫
佳慶	祥信	慶雅	忍政
絵子(平成五年卒)	圭子(昭和六十三年卒)	正子(昭和六十年卒)	弘忍(昭和五十七年卒)

児童は、明るく素直な子供らしい児童が多いです。生活面では、活動や作業への取り組みは積極的です。また、他人の気持ちを考えるなど、思いやりの心も徐々に育つてきていますが、さらに継続した指導が必要です。学習面では、学習常規や基礎・基本の定着に重点を置いて自信をもって学習をしたり、自分の考えを伝えたりすることができるよう日常の

る人口減少が続いており、高齢者世帯が増加している地域であります。新設当初は七百名を超える児童数でしたが、今年度は百六十四名の児童が在籍しており三十八年目を迎えました。

○ 計報 ご冥福をお祈りいたします

矢野 敏雄氏(昭和20年卒)	平成25年5月25日	逝去
森 淳一氏(昭和36年卒)	平成26年7月7日	逝去
清野 真一氏(昭和23年卒)	平成27年3月	逝去
瀬川 幹夫氏(昭和36年卒)	平成27年3月31日	逝去
里館 良平氏(昭和30年卒)	平成27年6月16日	逝去
信賀 政勝氏(昭和22年卒)	平成27年6月22日	逝去
渡部 芳光氏(昭和23年卒)	平成27年7月13日	逝去
押澤 正治氏(昭和29年卒)	平成27年7月17日	逝去
永田 笠浪幹雄氏(昭和29年卒)	平成27年8月5日	逝去
堀 小山内重名氏(昭和19年卒)	平成27年9月3日	逝去
坂田 敏雄氏(昭和23年卒)	平成27年9月4日	逝去
北川 省吾氏(昭和15年卒)	平成27年9月29日	逝去
佐々木 文孝氏(昭和19年卒)	平成27年11月9日	逝去
藤田 法行氏(昭和34年卒)	平成28年1月23日	逝去
高坂 藤吉氏(昭和15年卒)	平成28年2月20日	逝去
・ 吉田 稔氏(昭和52年卒)		
・ 山崎 正吉氏(昭和47年卒)		
・ 室本 紀恵子氏(昭和52年卒)		
・ 村上 俊博氏(昭和52年卒)		
・ 松井 美氏(昭和52年卒)		
・ 本田 理子氏(昭和52年卒)		
・ 須藤 由子氏(昭和53年卒)		
・ 大堂 譲氏(昭和53年卒)		
・ 東海林 子氏(昭和52年卒)		
・ 佐藤 洋子氏(昭和52年卒)		
・ 佐藤 由子氏(昭和53年卒)		
・ 坂田 耕士氏(昭和52年卒)		
・ 北川 浩氏(昭和46年卒)		

平成二十七年度  
夕陽会函館市支部

夕陽会函館市支部事務局

9  
用

○事務局会議 間支部長参加

□函館市支部総会

○道通に暑中見舞広告を掲載  
(二支部)

(平成二十八年度 予告)

4月  
平成  
27年

○総会会場予約  
○新年度会員名簿作成  
○事務局会議  
・支部総会

集金  
（会員登録用）  
11月  
28日（金）  
・支部会報88号発行  
○事務局会議  
○祝賀会・会員懇親会運営計画  
○受賞者への記念品

・日 時 四月九日（土）  
午前十時（会場：市民会館大会議室）

○受賞者への初意 (三支部)	○道通に教育の日広告を掲載
○函館市支部管理職名簿作成	○函館市支部会報発行計画
○支部会報発行計画	○支部別会員名簿提出
○幹事長出席	○祝賀会準備
○幹事長出席	○幹事長出席
○新会員歓迎会へ風間支部長 参加	○新会員歓迎会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○函館市支部新会員、転入会 員・幹事懇親会(ホテル法 華クラブ)	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○会費徴収	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○本部総会・懇親会推進業務 (本部との打合せ) しおり 作成等)	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○事務局会議	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○第3回夕陽会本部役員会に 出席	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○第4回本部役員会 顧問・ 参与会に支部長・幹事長出 席	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○夕陽会全国支部長会議・夕 陽会総会に支部長・幹事長 参加	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○本部総会・懇親会(函館国 際ホテル)	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○夕陽「明日の教師塾」案内 発送	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○支部会報発行計画	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○本部会報213号移送	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○管理職採用・昇任者に寄付 依頼	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○支部会報発行計画	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○退職会員の前納会員移行案内 ○総会(4/9)の準備	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)
○支部会報89号発行、本部会 報215号移送	○幹事懇親会案内状 発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会会員、民間)

◆夕陽会本部総会・大懇親会

期　　日　六月二十五日（土）

会　　場　函館国際ホテル

本部総会　午後四時〇〇分～

大懇親会　午後五時三十分～

**事務局だより**

- ・支部会報第八十九号をお届けいたしました。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。
- ・前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様に差し上げておりまます。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。